

Technics®



取扱説明書
ステレオインテグレートッドアンプ
SU-R1000

音楽は、国を越えて、世代を越えて、
人の心を揺さぶり続けます。
そして時代はいつも、
新しい感動を求めています。
まだ経験したことのない音との出会い。
音楽を愛するすべての人に、
再び心ふるわせる喜びを。

Rediscover Music™

Technics

最高水準の感動を、
世界へお届けできる時がきました。

Technics は、音と人との関係を大切に思い、
音楽を愛するすべての人に音楽の感動を提供し続け、
世界中の音楽文化の発展に貢献したいと考えています。
これが私たちの掲げたフィロソフィーです。
音をめぐる数々の出会いと経験が凝縮された今ここに、
Technics の理想をめざす、という確信が生まれました。
すべてにおいて最高クラスの品格と完成度をめざし、
世界中の人々から、憧れを抱いていただける、
幸せを感じていただけるブランドでありたいと願っています。

ディレクター
小川理子

A handwritten signature in black ink that reads "Michiko Ogawa". The signature is written in a cursive, flowing style with a long horizontal stroke at the bottom.

はじめに

このたびは、テクニクス製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(08～10ページ)を必ずお読みください。
- 保証書(別添付)は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

■ 本書内の表現について

- 参照していただくページを(⇒ ○○)で示しています。
- イラストや画面表示が実物と多少異なる場合がありますが、ご了承ください。
- 本書では、リモコンでの操作を中心に説明しています。

本機の特長

高度なデジタル技術を結集した プリメインアンプ

音声信号をフルデジタルのまま入力からパワー段まで低ジッター伝送・処理する「JENO Engine」、高速でロスの少ないスイッチングでリニアリティに優れたスピーカー駆動を実現する「GaN-FET Driver」に加え、スピーカーの逆起電力の影響を抑え、歪みの発生を高精度にキャンセルする「ADCT (Active Distortion Cancelling Technology)」を組み込み、フルデジタルの純度の高さに加え、優れたドライブ能力によるエネルギー溢れた躍動感のある音を実現します。

また、スピーカーを接続した状態でアンプの出力特性と位相特性を測定し、理想的なインパルス応答に補正するスピーカー負荷適合アルゴリズム「LAPC」など、様々な技術が盛り込まれ、低ノイズでクリアな音質や広大な音場を実現します。

音楽信号に追従した応答性の高い 低ノイズ電源供給を実現

高速スイッチングと低ノイズを両立する「Advanced Speed Silent Power Supply」を搭載。フルデジタルアンプによる解像度の高い音源再生に求められる瞬時の電源供給能力に優れたスイッチング電源のメリットを引き出し、ノイズ発生の影響を極限まで抑え、安定した電源供給を実現。

「JENO Engine」のポテンシャルをさらに引き出し、優れた音楽再生を支えます。

独自のデジタル技術で、 アナログレコードのポテンシャルを さらに引きだす Intelligent PHONO EQ

アナログ回路とデジタル回路のハイブリッド構成による「Accurate EQ Curve」で、高精度でS/Nに優れたEQ処理を実現。またRIAAカーブだけでなく様々なEQ補正カーブへも対応(⇒21)。アナログレコードの音をより忠実に再現します。

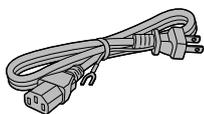
また、カートリッジ特有のクロストーク特性を測定し、DSPで補正することでクロストークを改善する「Crosstalk Canceller」、カートリッジ特有の周波数特性の乱れを補正する「PHONO Response Optimiser」で、より忠実にレコードの溝に刻まれた音を再現します(⇒20)。

もくじ

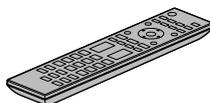
| | | |
|----------|----|--------------------|
| 安全上のご注意 | 08 | ご使用前に必ずお読みください |
| 取り扱いについて | 11 | 本機の設置、お手入れ |
| 各部の名前と働き | 12 | 本体、リモコン |
| 接続する | 16 | スピーカー / 電源コードを接続する |
| 音楽を楽しむ | 17 | 接続した各種機器の音楽を再生する |
| 使いこなす | 24 | 本機の設定を変更する |
| 故障かな!? | 29 | 故障かな!?!と思ったらご覧ください |
| 必要なとき | 32 | 仕様、保証とアフターサービスなど |

付属品

電源コード (1本)
K2CF3YY00016



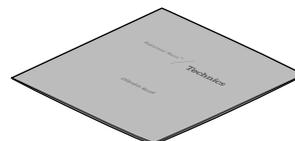
リモコン (1個)
N2QAYA000224



リモコン用乾電池
(単4形、2個)



キャリブレーション・レコード (1枚)
TSPX101



- 付属品の品番は 2021 年 7 月現在のものです。変更されることがあります。
- 電源コードおよびキャリブレーション・レコードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- キャリブレーション・レコードはその性質上、保管環境や使用方法によっては反ることがありますが、カートリッジ適正化機能 (Cartridge Optimiser) の再生時には、わずかな反りであれば問題なく読み取れるように設計しています。
- キャリブレーション・レコードは立てた状態での保管を推奨しています。レコードをたくさん積み重ねたり、傾けて保管すると反りが生じることがありますので、ご注意ください。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かないところに適切に保管してください。
- 本機を廃棄する場合は、地方自治体の条例に従ってください。

付属品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックの家電製品直販サイトでお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは家電製品直販サイトをご覧ください。
<https://ec-plus.panasonic.jp/>



必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

| | | | |
|---|---------------------------------|---|--|
|  | 警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。 |  | 注意 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。 |
|---|---------------------------------|---|--|

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)

| | | | |
|---|--------------|---|------------------|
|  | してはいけない内容です。 |  | 実行しなければならない内容です。 |
|---|--------------|---|------------------|

 **警告**

- | | |
|---|--|
|  | <p>異常・故障時には直ちに使用を中止する</p> <p>異常があったときには、電源プラグを抜く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・煙が出たり、異常なおいや音がする ・音が出ないことがある ・内部に水や異物が入った ・電源プラグが異常に熱い ・本体に変形や破損した部分がある <p>そのまま使うと火災・感電の原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。 |
|  | <p>電源コード・プラグを破損するようなことはしない</p> <p>(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど)</p> <p>傷んだまま使用すると、感電や、ショートによる火災の原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。 <hr/> <p>アース端子を電源コンセントに差し込まない</p> <p>火災・感電の原因になります。</p> <hr/> <p>アース線の接続、取り外しは、電源プラグをコンセントに接続している状態では行わない</p> <p>感電の原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アース線の接続は、電源プラグをコンセントに接続する前に行ってください。 ・アース線の取り外しは、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。 <hr/> <p>コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない</p> <p>たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因にもなります。</p> <hr/> <p>電池は誤った使いかたをしない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定以外の電池を使わない ・乾電池は充電しない ・加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない ・⊕ と ⊖ を針金などで接続しない ・金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに保管しない ・⊕ と ⊖ を逆に入れない ・新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない ・被覆のはがれた電池は使わない ・火のそばや炎天下など高温の場所で使用・放置しない <p>取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電池には安全のため被覆をかぶせています。これをはがすとショートによる火災の原因になりますので、絶対にはがさないでください。 |

警告



電池の液がもれたときは、素手でさわらない

- 液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

電池、PHONO ショートピンは、乳幼児の手の届くところに置かない

- 誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。
- 万一、飲み込んだら、すぐに医師にご相談ください。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

- ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。
- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
 - 特にお子様にはご注意ください。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力が大きく損なわれる原因になります。



分解、改造をしない

- 内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

分解禁止



ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

感電の原因になります。

ぬれ手
禁止



使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す

そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱・破裂の原因になります。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

- プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

- 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

アースは確実にを行う

- 本機の電源プラグはアース付き 3 芯プラグです。機器の安全確保のため、アースは確実に行ってご使用ください。感電の原因になります。
- アース工事は専門業者にご依頼ください。

 **注意**



不安定な場所に置かない

高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとする、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

本体のつまみをつかんで持ち上げたり、運んだりしない

落下すると、けがの原因になることがあります。

・また、製品の故障の原因にもなりますので、ご注意ください。

本機の上に重い物を載せたり、乗ったりしない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

・また、重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になることがあります。

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、火災や誤動作の原因になることがあります。

・天板の上に物を置いたり、天面の通気孔をふさがないでください。

使用時は天面に触れない

セット天面は高温になり、やけどの原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない

温度が高くなりすぎると、火災の原因になることがあります。

・直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

・また、外装ケースや内部部品が劣化する原因にもなりますのでご注意ください。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。



接触禁止

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

感電の原因になります。



長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出す

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

ヘッドホン接続前に、音量を下げる

音量を上げ過ぎた状態で接続すると、突然大きな音が出て耳を傷める原因になることがあります。

・音量は少しずつ上げてご使用ください。



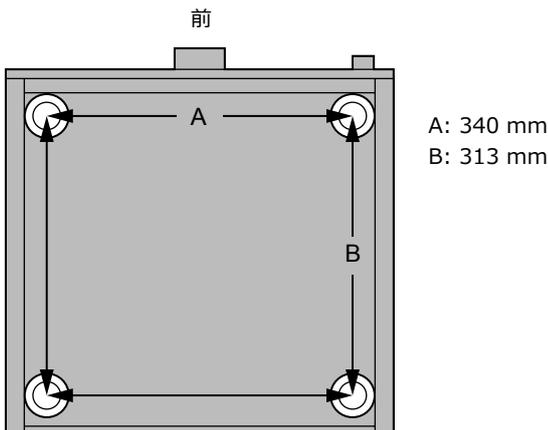
電源プラグを抜く

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

本機の設置

- 本機を移動させるときは、接続している機器をすべて取り外して電源を切って移動してください。
- 熱源となるものの上に設置しないでください。
- 温度変化が起きやすい場所に設置しないでください。
- 「つゆつき」が起りにくい場所に設置してください。
- 不安定な場所に設置しないでください。
- ものを上に載せないでください。
- 本棚の中など狭い空間に設置しないでください。
- 本機内部の放熱をよくするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。
- 丈夫で水平な場所に設置してください。
- 設置場所が本機の重量に十分耐えられることをご確認ください。(本機の質量 ⇒ 32)
- タバコの煙や、超音波式加湿器から噴霧された水分も故障の原因になりますのでお気をつけください。
- 本機は、温帯気候での使用を意図しています。
- 本機の外形寸法 (⇒ 32)
- 本機底面の脚の寸法は以下の通りです。



つゆつきについて

冷えたビンなどを冷蔵庫から出してしばらく置いておくと、ビンの表面に水滴が発生します。このような現象を「つゆつき」といいます。

- 「つゆつき」が発生しやすい状況
 - 急激な温度変化が起きたとき（暖かい場所から寒い場所への移動やその逆、急激な冷暖房、冷房の風が直接当たるなど）
 - 湯気が立ち込めるなど、部屋の湿度が高いとき
 - 梅雨の時期
- 「つゆつき」が起こったときは故障の原因になりますので、部屋の温度になじむまで（約2～3時間）、電源を切ったまま放置してください。

お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、柔らかい布でふいてください。

- 汚れがひどいときは、水にひたした布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、柔らかい布で軽くふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤または化学雑巾は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので使用しないでください。

音のエチケット

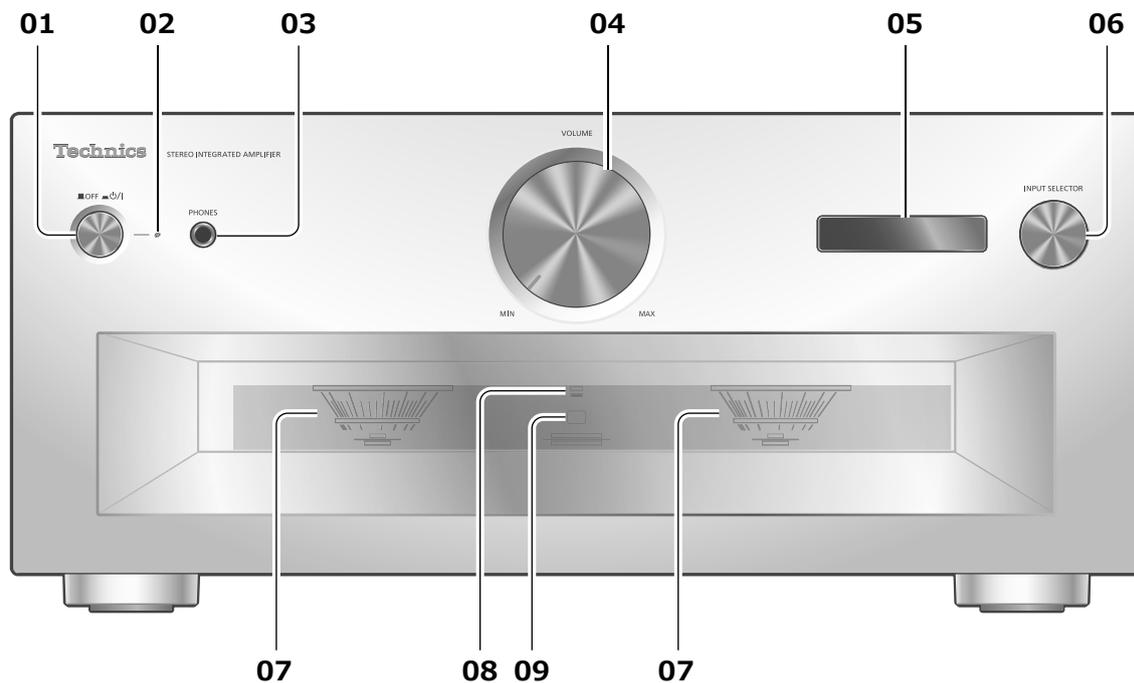
楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。適度の音量にして隣り近所へ配慮しましょう。

特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット
シンボルマーク

本体

**01 電源ボタン (■OFF ■ON/)**

- 本機の状態（電源入 / 切）を切り換えます。

02 電源インジケータ

- 電源「入」時は、青色に点灯します。
- 電源「切」時は、消灯します。

03 ヘッドホン端子

- ヘッドホンを接続している場合、スピーカーおよび PRE OUT 端子 (⇒ 23) から音声は出力しません。
- 入力ソースが「MAIN IN」のときは、ヘッドホン端子から音声は出力しません。(⇒ 22)

04 音量つまみ

- 音量の範囲 :
-- dB (最小)、-88.0 dB ~ 0 dB (最大)

05 表示窓

- 入力ソースなどの情報を表示します。(⇒ 30)
- 電源を入れてから本機が起動するまで入力ソースが点滅して表示されます。(点滅中は出音しません。)

06 入力切替つまみ

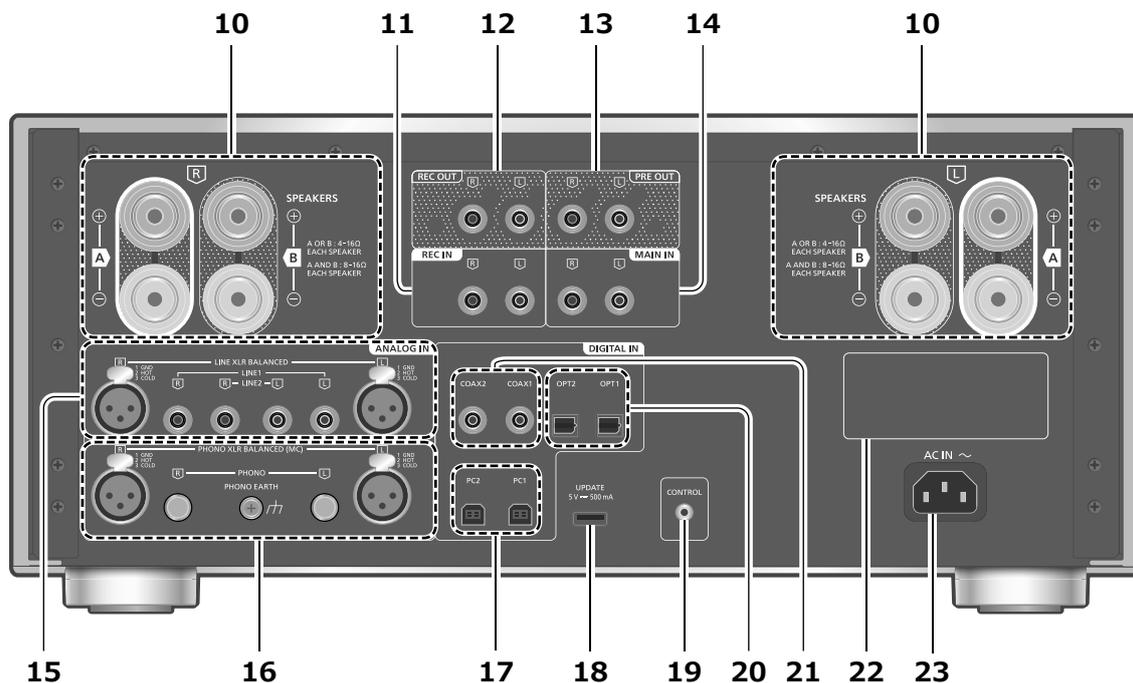
- 左右に回して入力ソースを切り換えます。

07 PEAK POWER METER

- 出力レベルを表示します。0 dB の表示位置が定格出力です。(⇒ 32)
- [DIMMER] を押してメーターのライトを消灯しているときや本機にヘッドホンを接続している場合など、PEAK POWER METER は動作しません。

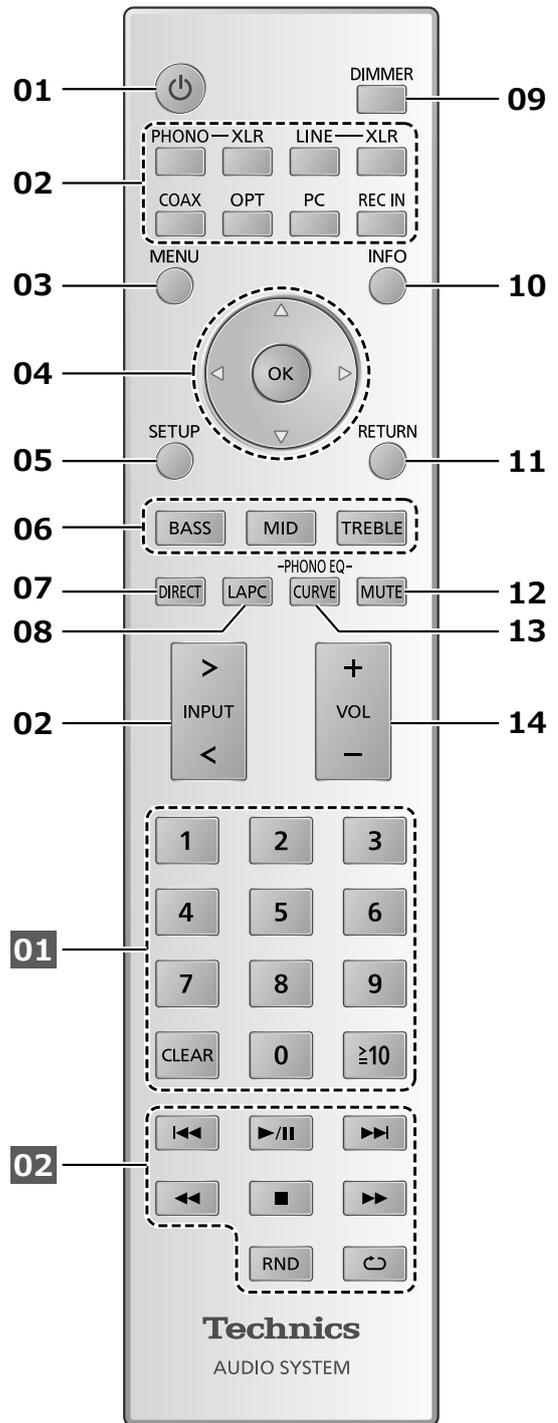
08 LAMP インジケータ (⇒ 26)**09 リモコン受信部**

- 受信範囲 :
正面…約 7 m 以内、左右…各約 30°
- 受信部とリモコンの間に障害物を置かないでください。

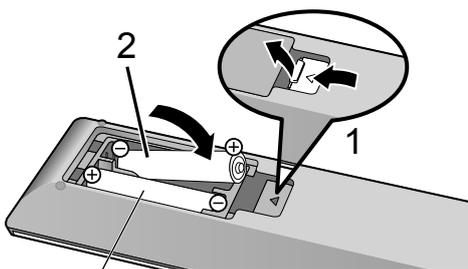


- 10 スピーカー出力端子 (⇒ 16)
- 11 アナログ音声入力端子 (REC IN) (⇒ 19、23)
- 12 アナログ音声出力端子 (REC OUT) (⇒ 23)
- 13 アナログ音声出力端子 (PRE OUT) (⇒ 23)
- 14 アナログ音声入力端子 (MAIN IN) (⇒ 22)
- 15 アナログ音声入力端子 (LINE XLR BALANCED / LINE1 / LINE2) (⇒ 19)
- 16 アナログ音声入力端子 (PHONO XLR BALANCED / PHONO) PHONO EARTH 端子 (⇒ 20)
 - ・PHONO EARTH 端子には、レコードプレーヤーのアース線を接続します。
- 17 USB-B 端子 (PC1 / PC2) (⇒ 18)
- 18 USB-A 端子 (UPDATE) (⇒ DC 5 V 500 mA) (⇒ 27)
- 19 システム端子 (CONTROL) (⇒ 28)
- 20 光デジタル入力端子 (OPT1 / OPT2) (⇒ 17)
- 21 同軸デジタル入力端子 (COAX1 / COAX2) (⇒ 17)
- 22 定格銘板
 - ・製品品番は定格銘板内に記載されています。
- 23 AC IN 端子 (～) (⇒ 16)

リモコン



リモコンの電池の入れかた



単4形乾電池（付属）

お知らせ

- ⊕ ⊖ を確認してください。
- 電池はマンガン乾電池、またはアルカリ乾電池をお使いください。
- 本体のリモコン受信部（⇒ 12）に、まっすぐに向けて操作してください。
- 不要になった電池を捨てるときは、地域条例に従って処理してください。
ショートによる液もれ・発熱・破裂の原因になりますので、端子部をセロハンテープなどで絶縁してください。

- 01 [**⏻**] : 本機の状態 (電源入 / スタンバイ) を切り換える
- 02 本機の入カソースを切り換える
(⇒ 17、18、19、20、23)
- 03 [MENU] : メニュー画面に入る
(⇒ 17、18、19、20、22)
- 04 [**▲**, **▼**, **◀**, **▶**] [OK] : メニューや設定画面などで選んで決定する
- 05 [SETUP] : 設定画面に入る
(⇒ 24)
- 06 [BASS]/[MID]/[TREBLE] : 低音域・中音域・高音域の音質を調整する (BASS/MID/TREBLE)
・ [**▲**] [**▼**] を押して調整します。
- 07 [DIRECT] : ダイレクトモードを入 / 切する
(⇒ 22)
- 08 [LAPC] : スピーカー接続時のアンプの出力信号を測定し、出力を補正する
(⇒ 26)
- 09 [DIMMER] : メーターのライトや表示窓などの明るさを変える
・ 消灯しているときは、本機を操作したときだけ、表示窓が数秒間点灯します。表示窓が消灯する前に「Display Off」が数秒間、表示されます。
・ 押すたびに明るさが切り換わります。
・ メーターのライトが消灯している場合、PEAK POWER METER は動作しません。
- 10 [INFO] : 情報を表示する
・ サンプリング周波数などが表示窓に表示されます。(入カソースごとに表示される内容は変わります)
- 11 [RETURN] : 前の画面に戻る
- 12 [MUTE] : 一時的に消音する
・ 解除するには、もう一度押す / 本機の音量を調節する / 本機の電源を切 / 入する
- 13 [CURVE] : PHONO イコライザーカーブを切り換える
(⇒ 21)
- 14 [+VOL-] : 音量を調節する
・ 音量の範囲 :
-- dB (最小)、-88.0 dB ~ 0 dB (最大)

■ システム接続対応機器に働くボタン

本機のリモコンは、Technics のシステム接続対応機器 (ネットワークオーディオプレーヤーやコンパクトディスクプレーヤーなど) にも働きます。システム接続対応機器の詳しい操作方法は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

- 01 数字ボタンなど
- 02 再生操作ボタン

リモコンモードを切り換える

リモコンを操作すると、他の機器にも影響してしまうことがあります。このときは、リモコンモードを変更してください。

・ お買い上げ時の設定は「Mode 1」です。

1 [SETUP] を押す

2 [**▲**] [**▼**] を押して「Remote Control」を選び、[OK] を押す

・ 本体側の現在のリモコンモードが数秒間表示されます。

3 「Set Mode 1/2」が表示されたら、リモコン側のリモコンモードを変更する

「Mode 1」にする場合 :

[1] を押しながら、[OK] を 4 秒以上押したままにする

「Mode 2」にする場合 :

[2] を押しながら、[OK] を 4 秒以上押したままにする

4 リモコンを本体に向けて、[OK] を 4 秒以上押して、本体側のリモコンモードを変更する

・ 完了すると、設定されたリモコンモードが表示窓に数秒間表示されます。

■ リモコンが働かないとき

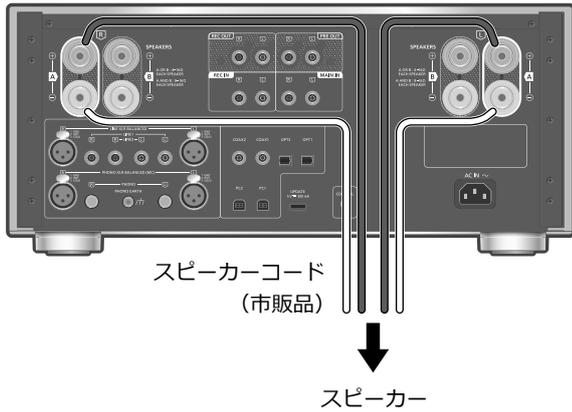
リモコンが働かないときは、表示窓に表示されている数字にリモコン側を切り換えてください (上記手順 2)。

・ 「U30 REM 1」と表示された場合は「Mode 1」に、「U30 REM 2」と表示された場合は「Mode 2」に変更してください。

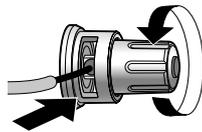
スピーカー / 電源コードを接続する

- 電源コードは、必ず付属のものをご使用ください。
- 接続ケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。
- ケーブルを急な角度で折り曲げないでください。
- 最適な音声出力を得るためにアンプの出力信号測定や出力補正を行うことができます。(⇒ 26)

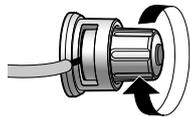
スピーカーの接続



1 つまみを回してゆるめ、
穴に芯線を差し込む

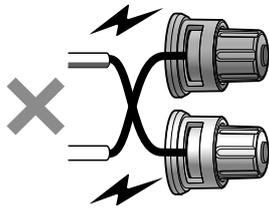


2 つまみを締める



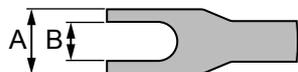
お願い

- スピーカーコードの先端が端子に確実に接続されているか、コードを軽く引いて確認してください。
- スピーカーコードをショートさせないでください。アンプの回路が破損するおそれがあります。
- 端子への接続は+、-を正しく接続してください。間違えて接続した場合、正常なステレオ効果を得られなかったり、故障の原因となることがあります。



お知らせ

- A: 16 mm 以下、
B: 8 mm 以上の Y ラグ端子が接続可能です。ただし、Y ラグ端子の形状によっては接続できない場合があります。
- スピーカーに添付の取扱説明書をご覧ください。



電源コードの接続

電源コードはすべての接続が終わった後、接続してください。



丸穴部分まで差し込んでください。(ただし、奥ま
では差し込めません)

■コンセントの向きについて

- 電源プラグの N が印字されている側を、コンセントの差し込み口の長い方に合わせて差し込むと良い音質を得られることがあります。
- ご家庭の電源コンセントによっては、差し込み口の方が長くないものもありますが、その場合はどちらの向きに差し込んででも問題ありません。



お願い

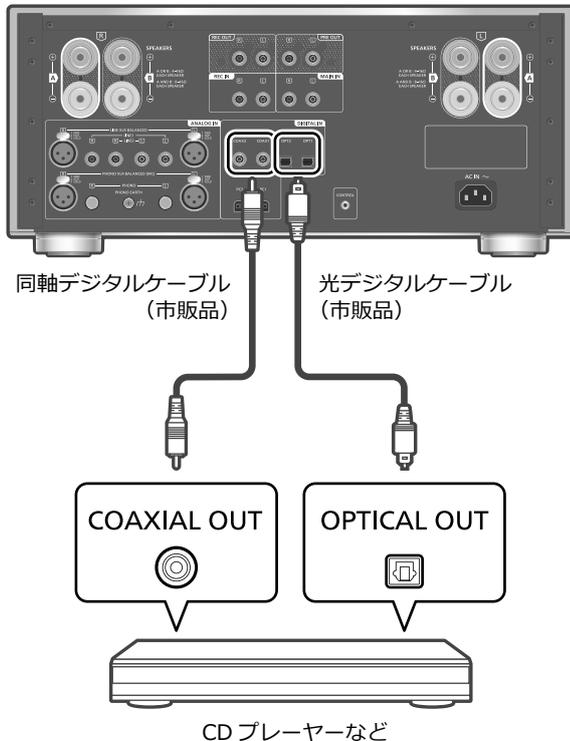
- 電源プラグがすぐに抜ける位置にあるコンセントをお使いください。
- アース線先端のキャップを外し、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前にアース接続を行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

お知らせ

- 本機が電源「切」状態でも、電源は完全には切れません。長期間使用しないときは、節電のため電源コードをコンセントから抜いておくことをお勧めします。本機が電源「切」状態でも、電力を消費しています。(電源「切」時の消費電力 ⇒ 32)

デジタル出力機器の音楽を再生する

CDプレーヤーなどのデジタル出力機器を同軸デジタルケーブル（市販品）や光デジタルケーブル（市販品）で本機に接続して、音楽を再生することができます。



同軸デジタルケーブルで接続する

- 1 本機の電源コードを抜く
- 2 CDプレーヤーなどを本機に接続する
- 3 本機と電源コードを接続する (⇒ 16)
- 4 電源ボタンを押して電源を入れる
- 5 [COAX] を押して入力ソースを「COAX1」 / 「COAX2」に切り換える
 - 本体の入力切替つまみでも切り換えることができます。
- 6 接続した機器側を操作して音楽を再生する

お知らせ

- 本機のデジタル音声入力は、以下のリニア PCM 信号のみに対応しています。詳しくは接続機器の取扱説明書をご確認ください。
 - サンプル周波数 :
 - 同軸デジタル /
 - 32、44.1、48、88.2、96、176.4、192 kHz
 - 光デジタル
 - 32、44.1、48、88.2、96 kHz
 - 量子化ビット数 :
 - 16、24 bit

光デジタルケーブルで接続する

- 1 本機の電源コードを抜く
- 2 CDプレーヤーなどを本機に接続する
- 3 本機と電源コードを接続する (⇒ 16)
- 4 電源ボタンを押して電源を入れる
- 5 [OPT] を押して入力ソースを「OPT1」 / 「OPT2」に切り換える
 - 本体の入力切替つまみでも切り換えることができます。
- 6 接続した機器側を操作して音楽を再生する

音声が遅延するとき

「LAPC」を「On」設定中に音声が遅延する場合は、「Low Latency」に設定し調整してください。

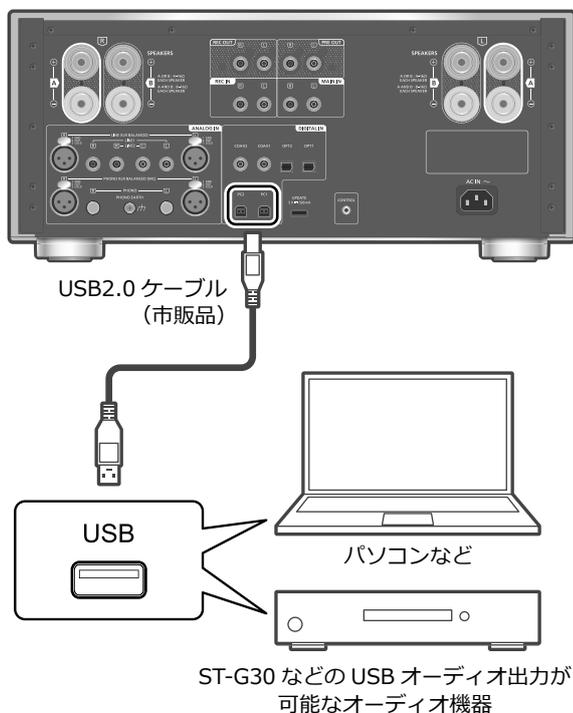
- 1 [MENU] を押す
- 2 [OK] を押す
- 3 [▲][▼] を押して「Normal」 / 「Low Latency」を選び、[OK] を押す
 - 再生する音源によっては、遅延補正の効果が働かない場合があります。

MQA[®] 音源をデコードする

MQA デコード機能を「On」に設定すると、MQA 音源をマスター・クオリティのような高い品質で再生することができます。MQA 音源を再生しない場合は、「Off」に設定してお使いください。(⇒ 24)

パソコンなどの音楽を再生する

パソコンなどを USB2.0 ケーブル（市販品）で本機に接続して、機器の音楽を再生することができます。



■ 準備する

パソコンと接続する場合、接続前に下記の操作を行ってください。

- パソコンの推奨 OS については下記をご確認ください。
(2021 年 7 月現在)
 - Windows 8、Windows 8.1、Windows 10
 - OS X 10.7、10.8、10.9、10.10、10.11、
macOS 10.12、10.13、10.14、10.15
- ① ご使用のパソコンに専用 USB ドライバソフトを下記 URL からダウンロード・インストールする
(Windows OS のみ)
jp.technics.com/support/
 - ② ご使用のパソコンに専用アプリケーション「Technics Audio Player」(無料)を下記 URL からダウンロード・インストールする
jp.technics.com/support/

- 1 本機の電源コードを抜く
- 2 パソコンなどを本機に接続する
- 3 本機と電源コードを接続する (⇒ 16)
- 4 電源ボタンを押して電源を入れる
- 5 [PC] を押して入力ソースを「PC1」 / 「PC2」に切り換える
 - 本体の入力切つまみでも切り換えることができます。
- 6 接続したパソコンで専用アプリケーション「Technics Audio Player」を起動して、音楽を再生する

お知らせ

- ST-G30 などの USB オーディオ出力が可能なオーディオ機器の詳しい操作方法は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 再生可能なフォーマットについて (⇒ 33)

音声が遅延するとき

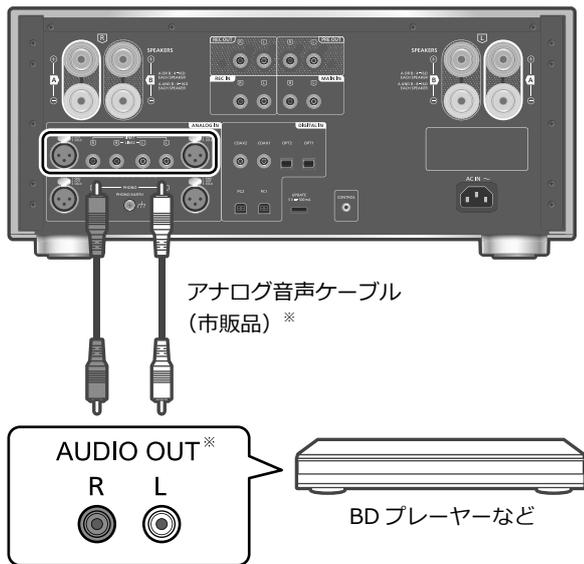
「LAPC」を「On」設定中に音声が遅延する場合は、「Low Latency」に設定し調整してください。

- 1 [MENU] を押す
- 2 [OK] を押す
- 3 [▲][▼] を押して「Normal」 / 「Low Latency」を選び、[OK] を押す

- 再生する音源によっては、遅延補正の効果が働かない場合があります。

MQA 音源をデコードする

MQA デコード機能を「On」に設定すると、MQA 音源をマスター・クオリティのような高い品質で再生することができます。MQA 音源を再生しない場合は、「Off」に設定してお使いください。(⇒ 24)



※ イラストはアナログ音声ケーブルの接続例です。
XLR ケーブルで機器を接続することもできます。

BD プレーヤーなどのアナログ出力機器をアナログ音声ケーブル（市販品）で本機に接続して、機器の音楽を再生することができます。

- 1 本機の電源コードを抜く
- 2 BD プレーヤーなどを本機に接続する
- 3 本機と電源コードを接続する (⇒ 16)
- 4 電源ボタンを押して電源を入れる
- 5 [LINE-XLR] または [LINE] を押して
入カソースを「LINE XLR」 / 「LINE1」 / 「LINE2」に切り換える
 - 本体の入力切替つまみでも切り換えることができます。
- 6 接続した機器側を操作して音楽を再生する

本機にレコーダーなどの機器を接続するとき

本機にレコーダーなどの録音機器を接続するときは、アナログ音声ケーブル（市販品）で本機の REC IN 端子に録音機器の音声出力を、本機の REC OUT 端子に録音機器の録音入力端子を接続します。(⇒ 23)

- 音声を再生するには [REC IN] を押して入カソースを「REC IN」に切換えます。

音がひずむとき

アナログ音声入力端子からの音声を再生中に音がひずむ場合は、「Attenuator」を「On」に設定すると改善される場合があります。

- お買い上げ時の設定は「Off」です。

- 1 [MENU] を押す
- 2 [▲][▼] を押して「Attenuator」を選び、
[OK] を押す
- 3 [▲][▼] を押して「On」を選び、[OK] を
押す

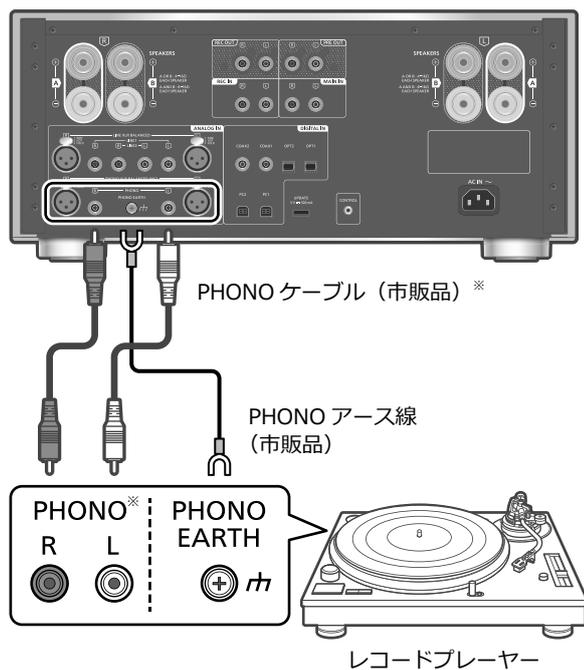
低域のノイズを減少させる

レコードの反りなどで発生する低域のノイズを抑えることができます。

- お買い上げ時の設定は「Off」です。

- 1 [MENU] を押す
- 2 [▲][▼] を押して「Subsonic Filter」を選び、
[OK] を押す
- 3 [▲][▼] を押して「On」を選び、[OK] を
押す

レコードプレーヤーの音楽を再生する



※ イラストは PHONO ケーブルの接続例です。
PHONO-XLR ケーブルで機器を接続することもできます。

1 本機の電源コードを抜く

2 レコードプレーヤーを本機に接続する

- PHONO 端子に接続するときは、PHONO ショートピンを外してください。
- レコードプレーヤーを接続する PHONO 端子は MM/MC 型カートリッジに対応しています。(PHONO XLR 端子は MC 型カートリッジのみに対応しています。)

3 本機と電源コードを接続する (⇒ 16)

4 電源ボタンを押して電源を入れる

5 [PHONO-XLR] または [PHONO] を押して入力ソースを「PHONO XLR」 / 「PHONO」に切り換える

- 本体の入力切替つまみでも切り換えることができます。

6 レコードプレーヤーを操作して音楽を再生する

お知らせ

- PHONO イコライザー内蔵のレコードプレーヤーを接続する場合、アナログ音声ケーブルで本機のアナログ音声入力端子 (LINE1 または LINE2) に接続してください。(⇒ 19)
- PHONO アース線のあるレコードプレーヤーと接続する場合、PHONO アース線を本機の PHONO EARTH 端子に接続してください。

カートリッジの種類に合わせて設定を変更する

アナログ音声入力端子 (PHONO) に接続したレコードプレーヤーのカートリッジ (MM/MC) に合わせて、本機の設定を切り換えてください。

1 [MENU] を押す

2 [▲][▼] を押して「MM/MC」を選び、[OK] を押す

3 [▲][▼] を押して「MM」 / 「MC」を選び、[OK] を押す

- 入力ソースが「PHONO XLR」のときは、設定できません。(「MC」に固定されます。)
- 「MM/MC」の設定を変更すると、「Cartridge Optimiser」の設定が「Off」になります。設定をやり直すか、「MM/MC」の設定に合わせた最適化データを選んで設定してください (⇒ 21)。

入力する音声信号のレベルを調整する

アナログ音声入力端子からの音声を再生中に音がひずむ場合や、音量が小さいときなど、「Gain」を調整すると改善される場合があります。

1 [MENU] を押す

2 [▲][▼] を押して「Gain」を選び、[OK] を押す

3 [▲][▼] を押して調整し、[OK] を押す

- 「Gain」の設定を変更すると、「Cartridge Optimiser」の設定が「Off」になります。設定をやり直すか、「Gain」の設定に合わせた最適化データを選んで設定してください (⇒ 21)。

カートリッジ特性に合わせて音声を最適化する

接続したレコードプレーヤーで、本機に同梱のキャリブレーション・レコードを再生し測定することで、カートリッジ特有のクロストーク特性やカートリッジの周波数特性の乱れを補正することができます。

- 「LAPC」を「On」設定中は「Cartridge Optimiser」の設定によっては、「REC OUT」が「Off」になり、アナログ音声出力端子 (REC OUT) から音声が出力されない場合があります。
- モノラルカートリッジをご使用の場合は「Cartridge Optimiser」の設定はしないでください。十分な効果が得られず、正しく再生されません。「Cartridge Optimiser」はステレオカートリッジ専用に設計されています。

■ 準備する

- レコードプレーヤーの PHONO アース線を本機の PHONO EARTH 端子に接続してください。
- レコードプレーヤーのカートリッジの種類に合わせて、本機の「MM/MC」を設定してください。
- レコードプレーヤーのカートリッジに合わせて本機の「Gain」の設定を調整してください。

1 [MENU] を押す

2 [▲][▼]を押して「Cartridge Optimiser」を選び、[OK]を押す

3 [▲][▼]を押して「Measurement Start」を選び、[OK]を押す

・「Prepare Calibration Record」と表示されます。

4 本機に同梱のキャリブレーション・レコードを、本機に接続したレコードプレーヤーで再生し、[OK]を押す

・キャリブレーション・レコードにはA面とB面に各2つずつトラックが収録されていますが、A面の外周のトラックから再生してください（約3分）。測定がうまくいかない場合は、その他のトラックを再生してください。

・再生中はテスト音が出力されます。

・「Crosstalk Canceller」および「Response Optimisation」用のデータを測定します。

5 「Lift up the tone arm」が表示されたら、キャリブレーション・レコードの再生を終了して[OK]を押す

・測定したデータの処理が行われます（約10分）。

6 処理が終了して「Completed」と表示されたら、[OK]を押す

7 「Register 1 - 3」と表示されたら[OK]を押し、[▲][▼]を押して保存先を選ぶ

・最適化したデータは3種類まで保存できます。保存済みのデータを選ぶとデータは上書きされます。

8 [OK]を押す

・「Registered」が表示されます。

9 (保存したデータに名前をつける場合)

「Rename ?」と表示されたら[OK]を押す。

・名前を変更しない場合は[■]を押してください。測定が終了し、保存した最適化データに設定されます。

10 [▲][▼][◀][▶]を押して名前を入力し、[OK]を押して設定を終了する

・変更した名前で保存され、保存した最適化データに設定されます。

■「Crosstalk Canceller」 / 「Response Optimisation」を個別に設定する

① [MENU]を押す

② [▲][▼]を押して「Cartridge Optimiser」を選び、[OK]を押す

③ [▲][▼]を押して保存したデータを選び、[▶]を押す

④ [▲][▼]を押して「Crosstalk Canceller」 / 「Response Optimisation」を選び、[OK]を押す

⑤ [▲][▼]を押して「On」 / 「Off」を選び、[OK]を押す

・「Crosstalk Canceller」：
カートリッジで発生する不要なクロストークを減少させます。

・「Response Optimisation」：
カートリッジとケーブルの容量より発生する共振を補正します。また、左右のバランスも調整します。

■設定を呼び出す

① [MENU]を押す

② [▲][▼]を押して「Cartridge Optimiser」を選び、[OK]を押す

③ [▲][▼]を押して保存したデータを選び、[OK]を押す

■名前を変更する

① [MENU]を押す

② [▲][▼]を押して「Cartridge Optimiser」を選び、[OK]を押す

③ [▲][▼]を押して保存したデータを選び、[OK]を押したままにする

④ [▲][▼][◀][▶]を押して名前を入力し、[OK]を押す

・半角英数字のみ使用できます。

・名前の最後の文字を選択時に[▶]を押すと「A」を追加できます。

・[CLEAR]を押すと1文字消去できます。

イコライザーカーブを切り換える

本機のイコライザーカーブを切り換えることができます。本機はRIAAに統一される前のイコライザーカーブをシミュレートしたのものにも対応しています。

・対応するイコライザーカーブについては、下記のサイト（「よくあるご質問」）をご確認ください。

jp.technics.com/support/

・お買い上げ時の設定は「RIAA」です。

1 [MENU]を押す

2 [▲][▼]を押して「EQ CURVE」を選び、[OK]を押す

3 [▲][▼]を押してイコライザーカーブを選び、[OK]を押す

・[CURVE]を押してもイコライザーカーブを切り換えることができます。

低域のノイズを減少させる

レコードの反りなどで発生する低域のノイズを抑えることができます。

・お買い上げ時の設定は「Off」です。

1 [MENU]を押す

2 [▲][▼]を押して「Subsonic Filter」を選び、[OK]を押す

3 [▲][▼]を押して「On」を選び、[OK]を押す

本機をメインアンプとして使う

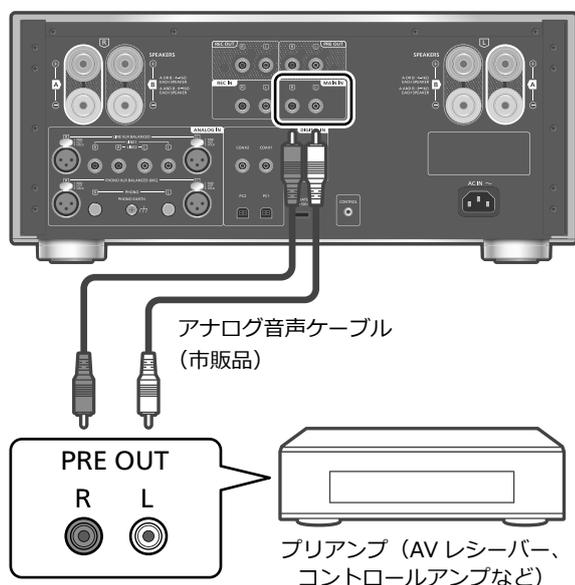
プリアンプ（AV レシーバー、コントロールアンプなど）をアナログ音声ケーブル（市販品）で本機に接続して、本機をメインアンプとしてお使いいただけます。



接続するプリアンプの音量を最小にしてから接続してください。
本機をメインアンプとして使用中は、本機で音量の操作はできません。接続したプリアンプの音量を少しずつ上げて調節してください。



本機の REC OUT 端子 / PRE OUT 端子から出力する音声を、絶対に本機の MAIN IN 端子に接続しないでください。故障の原因になります。



- 1 本機の電源コードを抜く
- 2 接続するプリアンプの音量を最小にした後、本機に接続する
- 3 本機と電源コードを接続する (⇒ 16)
- 4 電源ボタンを押して電源を入れる
- 5 [SETUP] を押す
- 6 [▲][▼] を押して「MAIN IN」を選び、[OK] を押す
- 7 [▲][▼] を押して「On」を選び、[OK] を押す
- 8 表示されるメッセージを確認し、[OK] を押す
- 9 [▲][▼] を押して「Yes」を選び、[OK] を押す
- 10 接続した機器を操作して音楽を再生する

お知らせ

- 本機での音量操作や音質調整 ([BASS]/[MID]/[TREBLE] など) はできません。
- ヘッドホン端子、PRE OUT 端子から音声は出力しません。

音がひずむとき

出力する音がひずむ場合は、「Attenuator」を「On」に切り換えると改善される場合があります。

- お買い上げ時の設定は「Off」です。

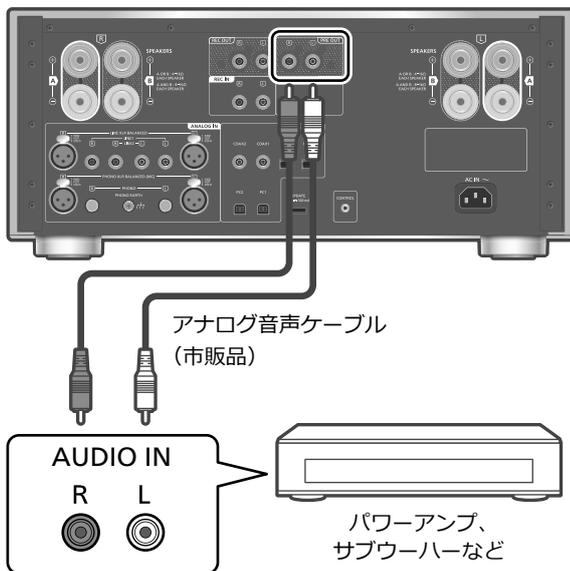
- 1 [MENU] を押す
- 2 [OK] を押す
- 3 [▲][▼] を押して「On」を選び、[OK] を押す

パワーアンプやサブウーハーを接続するとき

パワーアンプやサブウーハーなどをアナログ音声ケーブル（市販品）で本機に接続して、音声を出力することができます。



本機の REC OUT 端子 / PRE OUT 端子から出力する音声を、絶対に本機のアナログ音声入力端子に接続しないでください。故障の原因になります。



- 1 本機の電源コードを抜く
- 2 パワーアンプやサブウーハーなどを本機に接続する
- 3 本機と電源コードを接続する (⇒ 16)
- 4 電源ボタンを押して電源を入れる

お知らせ

- 接続機器の詳しい操作方法は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- PRE OUT 端子に接続したパワーアンプやサブウーハーなどへの音声出力を設定することができます。(⇒ 25)

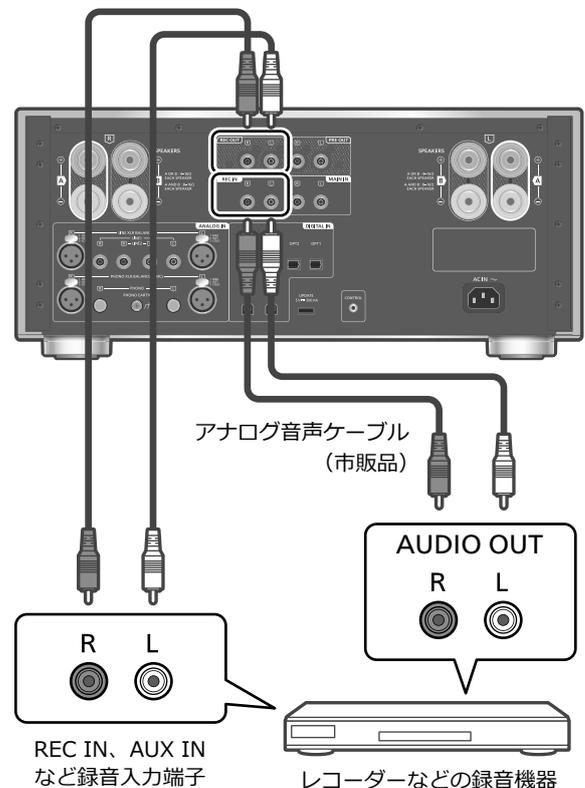
本機にレコーダーなどの録音機器を接続するとき

本機にレコーダーなどの録音機器を接続するときは、アナログ音声ケーブル（市販品）で本機の REC IN 端子に録音機器の音声出力を、本機の REC OUT 端子に録音機器の録音入力端子を接続します。

- 音声を再生するには [REC IN] を押して入力ソースを「REC IN」に切替えます。



本機の REC OUT 端子 / PRE OUT 端子から出力する音声を、絶対に本機のアナログ音声入力端子に接続しないでください。故障の原因になります。



- 1 本機の電源コードを抜く
- 2 レコーダーなどの録音機器を本機に接続する
- 3 本機と電源コードを接続する (⇒ 16)
- 4 電源ボタンを押して電源を入れる

お知らせ

- 音声を出力しているときに、入力ソースを切り換えると音声が途切れます。
- REC OUT 端子に接続したレコーダーなどの録音機器への音声出力を設定することができます。(⇒ 25)

本機の設定を変更する

お好みに合わせて音質を調整したり、いろいろな機能の設定ができます。

1 [SETUP] を押す

2 [▲][▼] を押して設定するメニューを選び、[OK] を押す

3 [▲][▼][◀][▶] を押して項目や設定値を選び、[OK] を押す

低音域・中音域・高音域の音質を調整する

「Tone Control」

[BASS]/[MID]/[TREBLE] を押して出力する音声の強弱を「BASS」（低域）、「MID」（中域）、「TREBLE」（高域）ごとに調整することができます。

- [BASS]/[MID]/[TREBLE] を押すと、「Tone Control」が「On」に切り換わり、音質の調整が可能です。
- それぞれ「-10」から「+10」まで調整できます。
- Technics のシステム接続対応機器（ネットワークオーディオプレーヤーなど）を連動させている場合、接続している機器の設定が優先される場合があります。接続した機器側で設定してください。
- 本機をメインアンプとしてご使用のとき（⇒ 22）は、本機では設定できません。接続したプリアンプ側の機能を使って、お好みの音に調整してください。
- 「BASS」、「MID」、「TREBLE」の調整をしない場合は、「Tone Control」を「Off」に設定してください。

スピーカーのバランスを調整する

「Balance L/R」

スピーカーの左右の音量バランスを調整します。

- 左右どちらかの最大値に設定すると、片方のスピーカーからは音声が出力されません。
- ヘッドホン端子、PRE OUT 端子からの出力も同様に調整されます。
- 本機をメインアンプとしてご使用のとき（⇒ 22）は設定できません。接続したプリアンプ側の機能を使って、お好みの音に調整してください。

音量の減衰量を調整する

「VOLUME Attenuator」

「On (-20dB)」に設定することで、小さい音量で聴く場合などに音量を調整しやすくなります。

- お買い上げ時の設定は「Off」です。
- 「On (-20dB)」に設定すると、表示窓に「ATT」が表示されます。
- 本機をメインアンプとしてご使用のとき（⇒ 22）は、本機では設定できません。接続したプリアンプ側の機能を使って、お好みの音に調整してください。

MQA 音源をデコードする

「MQA Decoding」

本機は MQA (Master Quality Authenticated) 技術を搭載しており、MQA 音源を、スタジオのマスター・クオリティのような高い品質で再生することができます。内蔵された MQA デコーダーが折りたたまれて記録されている音声信号を展開し、ハイレゾ音源として再生することができます。

MQA 音源をマスター・クオリティのような高い品質で再生するには、MQA デコード機能を「On」にする必要があります。

- お買い上げ時の設定は「On」です。
- MQA 音源再生中は、「MQA」または「MQA Studio」などが表示されます。

出力するスピーカーを選択する

「SPEAKERS」

音声を出力するスピーカーを選択します。

- お買い上げ時の設定は「A」です。

音声出力（PRE OUT）を有効にする 「PRE OUT」

PRE OUT 端子からの音声出力を有効に設定することができます。

- お買い上げ時の設定は「On」です。

音声出力（REC OUT）を有効にする 「REC OUT」

REC OUT 端子からの音声出力を有効に設定することができます。

- 「LAPC」または「Response Optimisation」を「On」に設定すると、「REC OUT」が「Off」になることがあります。
- お買い上げ時の設定は「On」です。

電源の切り忘れを防ぐ 「Auto Off」

設定を「On」にしていると、無音の状態が約 20 分続き、その間ボタン操作などがなかった場合、電力を節約するため、自動的にスタンバイ状態に切り換わります。

- お買い上げ時の設定は「Off」です。
- スタンバイ状態になる 3 分前になると、表示窓に「Auto Off」が表示されます。

お知らせ

- 電源を切 / 入しても、設定は保持されます。

画面の明るさを一時的に調整する 「Auto DIMMER」

設定を「On」にしていると、表示窓などが明るいままで無音の状態が約 20 分続き、その間ボタン操作などがなかった場合、表示窓や電源インジケータなどの明るさを一時的に調整します。

- お買い上げ時の設定は「On」です。
- 「Auto Off」を「On」に設定中は、「Auto Off」機能が優先されて自動的にスタンバイ状態に切り換わります。

本機の機種名を確認する 「Model No.」

本機の機種名を表示窓に表示します。

ファームウェアのバージョンを確認する 「F/W Version」

本機のファームウェアのバージョン情報を表示窓に表示します。

本機の設定を変更する（続き）

スピーカー接続時のアンプの出力信号を測定し、出力を補正する（LAPC）

お手持ちのスピーカーに合わせて、最適な調整を行います。

■ 準備する

- ヘッドホンは取り外しておいてください。

測定中のテスト音について

測定精度確保のために比較的大きなテスト音がスピーカーから間欠的に出力されます。（約3分）
測定中の音量は変えることができません。

1 電源ボタンを押して電源を入れる

2 表示窓に「Please Wait」が表示されるまで [LAPC] を押したままにする

「LAPC Measuring」が表示され、アンプの出力信号の測定が始まります。左右のスピーカーからテスト音が出力されることを確認してください。

測定が終了すると自動的にアンプの出力補正が「入」に切り換わります。

- 測定中および出力補正中にヘッドホンを接続すると、出力補正は中止されます。

お知らせ

- 「SPEAKERS」で設定した「A」「B」または「A+B」に対して出力補正の設定ができます。（「Off」に設定している場合は出力補正はできません。）（⇒ 24）
- 測定中に以下の操作をすると測定は中止されます。
 - [MUTE] または [LAPC] を押す
 - 入カソースを切り換える

■ 出力補正機能を入 / 切するには

[LAPC] を押してください。押すたびに切り換わります。

- 出力補正機能「入」時には、LAPC インジケーターが点灯し、表示窓に「LAPC : On」と表示されます。

お知らせ

- 本機の REC OUT 端子 / PRE OUT 端子から出力する音声を補正することはできません。（⇒ 23）
- 接続するスピーカーの種類によっては、出力補正機能の効果が少ない場合があります。
- 出力補正の設定は測定をやり直すまで維持されます。スピーカーを交換した場合は、出力測定をやり直してください。
- 「REC OUT」を「On」に設定すると、出力補正機能（LAPC）が「切」になることがあります。

ダイレクトモード

本モードを有効にすると、本機の「Tone Control」設定を解除し、音声をダイレクトに出力します。

- お買い上げ時の設定は「Off」です。

[DIRECT] を押して On/Off を切り替える

- 有効にするときは「On」を選択します。
- [BASS]/[MID]/[TREBLE] を押すとダイレクトモードが解除され、「Tone Control」が「On」になります。（⇒ 24）

ファームウェアを更新する 「F/W Update」

動作の改善や、新機能の追加のため、当社は本機のファームウェアを必要に応じて更新しています。これらのアップデートは無料でご利用できます。

- ファームウェアの更新内容（機能の変更および改善）については下記のサイトをご確認ください。
jp.technics.com/support/firmware/



ファームウェアの更新は約 3 分かかります。
ファームウェアの更新中は絶対に電源コードを抜かないでください。
ファームウェアの更新中は絶対にバージョンアップ用 USB を抜かないでください。
 更新中は「Updating □ %」などの進捗状況が表示窓に表示されます。
 （□は数字を表しています）

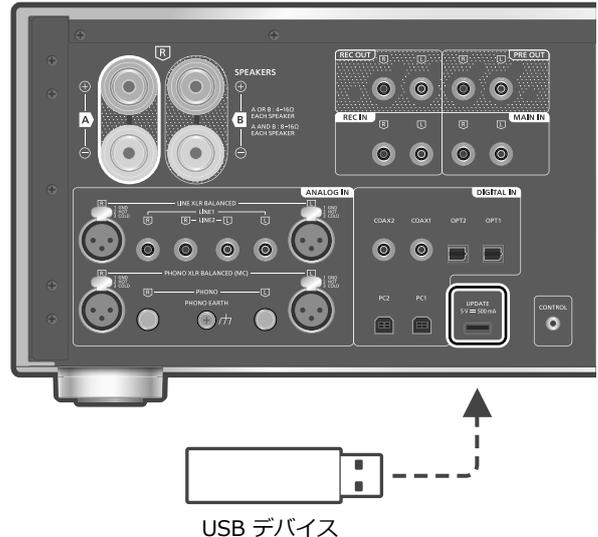
お知らせ

- ファームウェアの更新中は他の操作はできません。
- 本機のファームウェアが最新の場合は、「Firmware is Up To Date」と表示窓に表示されます。（更新の必要はありません）
- ファームウェアを更新すると、本機の設定が初期化される場合があります。

■ 準備する

- サポートページよりバージョンアップ用のファームウェアをダウンロードし、バージョンアップ用 USB デバイスを作成する。
 -バージョンアップ用 USB デバイスの作成方法は、下記のサイトをご確認ください。
jp.technics.com/support/firmware/

1 バージョンアップ用 USB デバイスを本体に接続する



2 [SETUP] を押す

3 [▲][▼]を押して「F/W Update」を選び、[OK]を押す

4 [▲][▼]を押して「Yes」を選び、[OK]を押す

- 更新中は「Updating □ %」などの進捗状況が表示されます。（□は数字を表しています）
- 更新が完了すると「Success」と表示されます。

5 電源ボタンを押して電源を切 / 入する

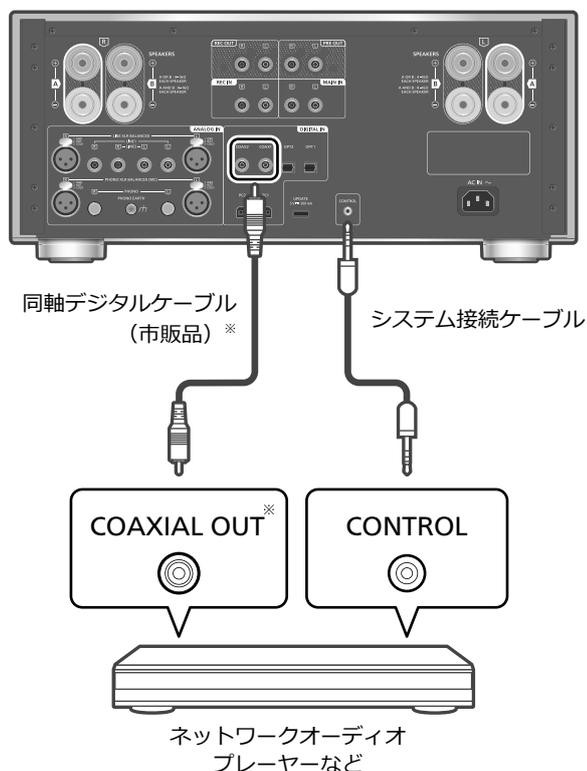
お知らせ

- お使いの USB デバイスによっては、更新に時間がかかる場合があります。
- FAT16、FAT32 形式でフォーマットされた USB デバイスをご使用ください。
- 本機の UPDATE 端子は、ファームウェア更新専用の端子です。バージョンアップ用 USB デバイス以外の USB 機器を接続しないでください。
- 本機の UPDATE 端子からは USB 機器は充電できません。

システム接続機能を使う

本機と Technics のシステム接続対応機器（ネットワークオーディオプレーヤーやコンパクトディスクプレーヤーなど）を自動的に連動させて、リモコンで簡単に操作することができます。

- ・接続機器の詳しい操作方法は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。



※ イラストは、同軸デジタルケーブルの接続例です。接続する機器に対応する端子 / ケーブルで接続してください。

システム接続ケーブルとオーディオケーブルで接続する

- 1 本機の電源コードを抜く
- 2 Technics のシステム接続対応機器（ネットワークオーディオプレーヤーなど）を本機に接続する
 - ・システム接続ケーブルとオーディオケーブルの2つを、それぞれ接続機器と本機に接続してください。
 - ・システム接続ケーブルは、接続機器に付属のものをお使いください。
- 3 本機と電源コードを接続する（⇒ 16）
- 4 電源ボタンを押して電源を入れる
- 5 [SETUP] を押す
- 6 [▲][▼] を押して「System Control」を選び、[OK] を押す

7 [▲][▼] を押して手順 2 で接続した入力ソースを選び [OK] を押す

- ・システム接続機能を無効にするには、「Off」を選択してください。

お知らせ

- ・本機をメインアンプとしてご使用のとき（⇒ 22）は、MAIN IN 端子に接続している機器と本機とのシステム接続機能は働きません。

本機と接続機器の状態を連動して切り換える

- ・本機および接続機器がスタンバイ状態のときに、[⏻] を本機に向けて押すと、本機および入力ソース（「System Control」で設定した入力ソース）で選択されている機器の電源が自動的に「入」になります。
- ・本機および接続機器が電源「入」状態のときに [⏻] を本機に向けて押すと、本機および接続機器はスタンバイ状態になります。

本機の入力ソースを自動で切り換える

接続機器で再生などの操作を行うと、本機の入力ソースは「System Control」で設定した入力ソースに自動的に切り換わります。

故障かな?と思ったら以下の項目を確かめてください。それでも直らないときや、ここに記載のない症状のときはお買い上げの販売店にご相談ください。

本機の温度上昇について

本機使用中は温度が高くなりますが、性能・品質には問題ありません。

ファームウェアを更新していますか?

本機の動作を改善するために、ファームウェアは必要に応じて更新されています。(⇒ 27)

本機の設定をお買い上げ時の状態 (工場出荷設定)に戻すには

本機の動作がおかしいと思われる場合、一度お買い上げ時の状態に戻してみると、症状が改善されることがあります。

1 [SETUP] を押す

2 [▲][▼] を押して「Initialization」を選び、 [OK] を押す

- 確認画面が表示されます。次の手順で「Yes」を選ぶと、リモコンモードなどのすべての設定が、お買い上げ時の設定に戻ります。

3 [▲][▼] を押して「Yes」を選び、[OK] を押す

4 [▲][▼] を押して「Yes」を選び、[OK] を押す

共通

本機が操作を受け付けなくなった、 正常に動作しなくなった

- 各種安全装置が働いていることがあります。
 - ① 本体の電源ボタンを押し、電源を切る
-切れない場合は、電源コードをコンセントから抜き、約3分後再びコンセントに差し込んでください。
 - ② 本体の電源ボタンを押し、電源を入れる
 上記の操作を行っても操作できないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- リモコンが正しく働いていないこともあります。(⇒ 30)

再生中に「ブーン」という音がする

- 接続コードの近くに他の電気機器の電源コードや蛍光灯がありませんか。他機器の電源を切るか、本機からできるだけ離してください。
- 電源プラグを逆に差し換えてみてください。
- テレビの近くなど磁気の強い場所では、音声の品質が影響を受ける場合があります。本機をそのような場所から離してみてください。
- 通話中の携帯電話など、強度の高い電波を発する機器が近くにある場合、ノイズを出力する場合があります。

音声が正常に出力されない

- 本機、または接続機器の音量を調整してください。
- 接続方法は正しいですか。
- スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
- スピーカーを接続し、アンプの出力信号を測定してください。(⇒ 26)
- スピーカーのインピーダンスを確認してください。
- 電源を切ってから接続し直してください。
- 入力ソースを正しく選択してください。
- 接続ケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。
- ヘッドホンを接続している場合、スピーカーおよびPRE OUT 端子から音声は出力しません。
- マルチチャンネルのコンテンツの再生には対応していません。
- 本機のデジタル音声入力端子は、リア PCM 信号のみに対応しています。詳しくは接続機器の取扱説明書をご確認ください。

音がひずむ

- 現在、選択しているアナログ音声入力に応じて「Attenuator」を「On」に設定するか、「Gain」を調整すると改善される場合があります。(⇒ 19、22)

電源が突然切れる

- オートオフ機能が働いていませんか。(⇒ 25)
- 本機には温度上昇による損傷を防ぐための保護回路が備わっています。長時間大きな音量で本機を使用すると、自動的に電源が切れる場合があります。温度が下がってから再度電源を「入」にしてください。(温度が下がるまで約3分かかります)

本機の設定が初期化される

- ファームウェアを更新すると、本機の設定が初期化される場合があります。

PEAK POWER METER が動作しない

- 以下の場合メーターは動作しません。
 - ヘッドホンを接続している場合
 - [DIMMER] を押してメーターのライトが消灯している場合
 - [MUTE] を押して消音している場合
 - 「SPEAKERS」を「Off」に設定している場合(⇒ 24)

表示窓が暗い

- [DIMMER] を押して明るさを調節してください
- 「Auto DIMMER」の設定を確認してください。(⇒ 25)

システム接続機能が働かない

- システム接続ケーブルは、接続する機器に付属のものをお使いください。
- システム接続ケーブルは、システム接続端子(CONTROL)に接続してください。
- 「System Control」の設定を「Off」にしていると、システム接続機能は働きません。(⇒ 28)
- 本体の電源ボタンで本機の電源を切っている場合は、リモコンおよび接続機器から操作しても本機の電源は入りません。
- システム接続ケーブルとオーディオケーブルで接続した端子と、「System Control」で設定した入力ソースが一致していることを確認してください。(⇒ 28)
- Technics のシステム接続対応機器(ネットワークオーディオプレーヤーやコンパクトディスクプレーヤーなど)を接続してください。対応機器については、下記のサイトをご確認ください。
jp.technics.com/support/

PC

パソコンが本機を認識しない

- 動作環境を確認してください。(⇒ 18)
- パソコンを再起動して本機の電源を入れ直してから、USB ケーブルを再度接続してください。
- 本機と接続するパソコンの USB 端子を変更してください。
- ご使用のパソコンが Windows の場合は、専用 USB ドライバーをインストールしてください。(⇒ 18)

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池が消耗している場合は電池を交換してください。(⇒ 14)
- 本体の受信部とリモコンの間に障害物がありませんか。(⇒ 12)
- 本機とリモコンのリモコンモードが異なっている場合は、リモコンのリモコンモードを本機と合わせてください。(⇒ 15)

本機のリモコン操作で他の機器が動作してしまう、他の機器のリモコンで本機が動作してしまう

- 他の機器が干渉しないように、本機とリモコンのリモコンモードを変更してください。(⇒ 15)

表示窓

ATTENTION : MAX Output Setting

本機がメインアンプになり、音量の調整ができなくなります。

- 接続したプリアンプの音量を少しずつ上げて調節してください。(⇒ 22)

Auto Off

本機の使用が約 20 分間ない場合、オートオフ機能(⇒ 25)が働き、電源が切れます。取り消すときは、[OK]などを押してください。

Connect USB Device

ファームウェアの更新に失敗しました。

- ファームウェアの更新をやり直してください。(⇒ 27)

Disconnect PHONES

ヘッドホンが接続されている状態では、出力補正機能 (LAPC) が始まりません。

- ヘッドホンを取り外してください。
- 測定中および出力補正中にヘッドホンが接続されると、出力補正は中止されます。(⇒ 26)

F □□ (□は数字を表しています)

異常が発生しました。(本機は異常を検出すると、保護回路が働いて、電源を自動的に切る場合があります)

- 著しい大音量で聴いていませんか。また、異常に暑い場所で使用していませんか。
- しばらく待ってから再び電源を入れてください。(保護回路の動作が解除されます)
それでも同じ現象が起こる場合は、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にご相談ください。

Load Fail

接続した USB デバイスにバージョンアップ用のファームウェアがありません。

- バージョンアップ用のファームウェアを USB デバイスにダウンロードしてください。(⇒ 27)

Measurement Fail

- 「Cartridge Optimiser」の測定・処理に失敗しました。表示される以下の原因を確認してください。

「High Level」:

出力信号にノイズが多い、またはレコードプレーヤーの出力レベルが高すぎる状態です。再生しているレコードにほこりや汚れがある場合は取り除いてください。また、「Gain」を確認して本機の入力レベルを調整してください(⇒ 20)。

レコードプレーヤーのカートリッジの種類と、本機の「MM/MC」の設定を確認してください(⇒ 20)。

「Low Level」:

再生ができていない、レコードプレーヤーの出力レベルが低い状態です。レコードプレーヤーが正しく接続され、再生できているか確認してください(⇒ 20)。また、「Gain」を確認して本機の入力レベルを調整してください(⇒ 20)。

レコードプレーヤーのカートリッジの種類と、本機の「MM/MC」の設定を確認してください(⇒ 20)。

「Low Quality」:

レコードプレーヤーの出力信号にノイズが多い状態です。再生しているレコードにほこりや汚れがある場合は取り除いてください。または違うトラックを試してください。
それでも問題が解決しない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

「Speed Mismatch」:

レコードの回転数が正しくありません。レコードプレーヤーの回転数の調整などを行い、正しい回転数で再生してください。

「System Error」:

システムエラーの可能性がります。お買い上げの販売店にご相談ください。

No Device

バージョンアップ用 USB デバイスが接続されていません。

- バージョンアップ用 USB デバイスを本機に接続してください。(⇒ 27)

Not Measured

出力補正 (LAPC) の出力信号の測定が実施されていません。

- 出力信号の測定を行ってください。(⇒ 26)

Not Valid

操作された機能は現在使用できません。

- 手順や設定を確かめてください。
「Cartridge Optimiser」で選択した測定データの入力ソースと、現在の入力ソースが違います。(⇒ 20)
- 測定した入力ソースに切り換えてください。
- 「Cartridge Optimiser」の測定中は[MUTE]を押しても消音しません。音量を調整してください。

PHONES Connected

ヘッドホンが接続されています。

- 入力ソースが「MAIN IN」のときにヘッドホンが接続されると、本機のヘッドホン端子およびスピーカー端子から音声は出力しません。(⇒ 22)

U30 REM 1/U30 REM 2

リモコンモードの設定が本機と合っていません。

- リモコンモードを変更してください。(⇒ 15)

Unlocked

機器を接続していない状態で「COAX1」「COAX2」「OPT1」「OPT2」「PC1」「PC2」を選んでいきます。音声信号のサンプリング周波数などが正しく入力できていません。

- 接続を確かめてください。(⇒ 17、18)
- 再生可能なフォーマットについて(⇒ 33)

USB Over Current

USB デバイスに過大な電流が流れるのを検出しました。(本機は、異常を検出すると、保護回路が働いて、電源を自動的に切る場合があります)

- USB デバイスを本機から取り外して、接続をやり直してください。(⇒ 27)
- 電源を切/入してください。

VOLUME □□ OK (□は数字を表しています)

入力ソースを「MAIN IN」から切り換えるときに、切り換え後に設定される音量が表示されます。

- 表示された音量を確認し、音量が大きい場合は調整してから、[OK]を押してください。

仕様

■ 総合

| | |
|------------------|----------------------------|
| 電源 | AC 100 V、50/60 Hz |
| 消費電力 | 220 W |
| 電源切（スタンバイ）時の消費電力 | 約 0.3 W |
| 寸法（幅×高さ×奥行） | 430 mm × 191 mm × 459 mm |
| 質量 | 約 22.8 kg |
| 許容動作温度 | 0 °C ~ 40 °C |
| 許容相対湿度 | 35 % ~ 80 % RH (結露なきこと) |

■ アンプ部

| | | |
|------------------|--|--|
| 定格出力 | 150 W + 150 W (1 kHz、T.H.D. 0.5 %、8 Ω、 20 kHz LPF) | |
| | 300 W + 300 W (1 kHz、T.H.D. 0.5 %、4 Ω、 20 kHz LPF) | |
| 推奨負荷インピーダンス | 4 Ω - 16 Ω | |
| 周波数特性 | PHONO (MM) | 20 Hz - 20 kHz (RIAA DEVIATION ± 1 dB、8 Ω) |
| | LINE | 5 Hz - 80 kHz (-3 dB、8 Ω) |
| | DIGITAL | 5 Hz - 80 kHz (-3 dB、8 Ω) |
| 入力感度 / 入力インピーダンス | PHONO (MM) | 2.5 mV / 47 k Ω |
| | PHONO (MC) | 300 uV / 100 Ω |
| | LINE | 200 mV / 22 k Ω |

■ 入出力端子部

| | | |
|--------|---------------------------------|---------------|
| ヘッドホン | ステレオ (Φ 6.3 mm) 0.75 mW、32 Ω | |
| PC | 背面、USB B タイプコネクタ × 2 | |
| アナログ入力 | LINE × 2 | ピンジャック |
| | LINE XLR | 3 ピン、XLR |
| | PHONO (MM/MC) | ピンジャック |
| | PHONO XLR (MC) | 3 ピン、XLR |
| | MAIN IN | ピンジャック |
| | REC IN | ピンジャック |
| デジタル入力 | 光デジタル入力 × 2 | 光角型端子 |
| | 同軸デジタル入力 × 2 | ピンジャック |
| | サポートフォーマット | PCM |
| アナログ出力 | REC OUT | ピンジャック |
| | PRE OUT | ピンジャック |
| システム接続 | システムコントロール | Φ 3.5 mm ジャック |

■ USB 対応フォーマット

USB-B

| | |
|---------------|--|
| USB 規格 | USB2.0 High-speed USB Audio Class 2.0、 Asynchronous mode |
| DSD コントロールモード | ASIO Native mode、 DoP mode |

■再生フォーマット

本機は以下の再生フォーマットに対応しています。

- 本機が対応している再生フォーマットでも再生できないことがあります。
- 本機が対応していない再生フォーマットを再生すると、音声途切れたりノイズが出る場合があります。その場合は、本機が対応している再生フォーマットか確認してください。
- 本機と再生ソフトで、表示されるファイル情報（サンプリング周波数など）が異なる場合があります。

PC (USB-B) で音楽を再生する場合*

| 再生フォーマット | サンプリング周波数 | ビットレート 量子化ビット数 |
|----------|--|-------------------|
| PCM | 32, 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192, 352.8, 384 kHz | 16, 24, 32 bit |
| DSD | 2.8 MHz, 5.6 MHz, 11.2 MHz 22.4 MHz (ASIO Native mode のみ) | |

MQA デコーダー

本機のデジタル音声の入カソース（COAX1/COAX2/OPT1/OPT2/PC1/PC2）において、MQA 音源のデコード機能に対応しています。

※ 専用アプリケーションをダウンロード・インストールすると様々な種類のフォーマットのファイルを再生することができます。（⇒ 18）詳しくはアプリケーションの取扱説明書をお読みください。

注：この仕様は、性能向上のために変更することがあります。

「JIS C 61000-3-2 適合品」

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第 3-2 部：限度値—高調波電流発生限度値（1 相当りの入力電流が 20 A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Mac および OS X は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
macOS は、Apple Inc. の商標です。

DSD はソニー株式会社の登録商標です。



MQA and the Sound Wave Device are registered trade marks of MQA Limited
© 2016

The Clear BSD License

Copyright (c) 2015, Freescale Semiconductor, Inc.

Copyright 2016-2017 NXP

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted (subject to the limitations in the disclaimer below) provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the copyright holder nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

NO EXPRESS OR IMPLIED LICENSES TO ANY PARTY'S PATENT RIGHTS ARE GRANTED BY THIS LICENSE. THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

保証とアフターサービス

使いかた・お手入れ・修理などは

まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

| | |
|--------|-----------------|
| 販売店名 | |
| 電 話 | () - |
| お買い上げ日 | 年 月 日 |

■ 修理を依頼されるときは

29 - 31 ページの「故障かな!?’でご確認のあと、直らないときは、電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ日と下記の内容をご連絡ください。

| | |
|-------|------------------|
| 製品名 | ステレオインテグレートッドアンプ |
| 品番 | SU-R1000 |
| 故障の状況 | できるだけ具体的に |

- 保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。
保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間
- 保証期間終了後は、診断をして修理できる場合は、ご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

| | |
|-----|------------------|
| 技術料 | 診断・修理・調整・点検などの費用 |
| 部品代 | 部品および補助材料代 |
| 出張料 | 技術者を派遣する費用 |

※補修用性能部品の保有期間 **8 年**

当社は、このステレオインテグレートッドアンプの補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

転居や贈答品などでお困りの場合は、次の窓口にご相談ください

パナソニック 総合お客様サポートサイト <https://www.panasonic.com/jp/support/>

| | |
|--|--|
|  <p>DIGA (ディーガ)・オーディオ 使い方・お手入れなどのご相談窓口</p> <p>フリーダイヤル  0120-878-982 受付時間 9:00~18:00 (年中無休)</p> <p>■上記電話番号がご利用 いただけない場合 06-6907-1187</p> <p>■FAX フリーダイヤル  0120-878-236</p> <p>Help desk for foreign residents in Japan Tokyo (03) 3256-5444 Osaka (06) 6645-8787 Open: 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays/Sundays/national holidays)</p> |  <p>修理に関するご相談窓口</p> <p>フリーダイヤル  0120-878-554</p> <p>■上記電話番号がご利用 いただけない場合 03-6633-6700</p> <p>■FAX フリーダイヤル  0120-878-225</p> <p>便利な修理サービスサイト https://club.panasonic.jp/repair/</p>  |
|--|--|

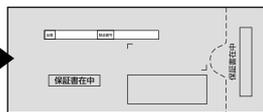
- ・掲載サイトおよび動画の視聴は無料ですが、通信料金はお客様のご負担となります。(パケット定額サービスに未加入の場合、高額になる可能性があります)
- ・ご使用の回線 (IP 電話やひかり電話など) によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
- ・上記のURLはお使いの携帯電話等により、正しく表示されない場合があります。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

| | | | |
|---|-----------------------------|---|--|
| 愛情点検 | 長年ご使用のステレオインテグレートッドアンプの点検を！ | | |
|  | <p>こんな症状 ありませんか</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・煙が出たり、異常なおいや音がする ・音が出ないことがある ・内部に水や異物が入った ・本体に変形や破損した部分がある ・その他、異常や故障がある | <p>ご使用 中止</p> <p>故障や事故防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。</p> |

パナソニックの会員サイト「**CLUB Panasonic**」で「**商品登録**」をお願いします

| | | |
|--|---|---|
| <p>家電情報をまとめて登録管理 登録商品のサポートも充実</p> | <p>詳しくはこちら https://club.panasonic.jp/aiyo/</p> |  |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 保証書用封筒に記載されているQRコードから登録していただくと、品番登録と製造番号を入力する必要がなく、簡単に登録いただけます | <p>QRコード</p>  |  |

・QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

パナソニック株式会社
アプライアンス社

〒525-8520 滋賀県草津市野路東2丁目3番1-1号
© Panasonic Corporation 2020-2021

TQBM0613-1
M1020YY1071